

会にお願いしている。平成27年は鮎千匹、ウナギ18匹であり、委託料は28万円である。

地元住民との協議連携については。

委託料や、昨年の台風被害の件、柏木平レイクリゾート(株)との連携のもとに地元住民と協議を進めていく。

ふるさと寄附金の取り組みの充実を

個人版ふるさと納税の取り組みの現状は。

昨年10月から取り組みを始め、今年1月末までに寄せられた金額は、約2500件、5500万円である。4割が返礼品、1割が送料、事務手数料等で1割を使用し、残り4割が自主財源となる。自主財源の確保、経済の活性化に寄与している。

返礼品について現在36事業者に参加いただいているが、事業者の増加に取り組む。「おまけ」等、付加価値を高め、遠野らしさにこだわった取り組みをしたい。

介護難民の心配はないか

市内のグループホーム1カ所が廃止となる。その要因は何か。

介護職員の不足により施設維持が困難となったためである。介護人材の確保には、所得のアップ・悪いイメージの払拭・仕事の社会的な評価を高めることなどが必要と考える。

昨年、介護職の魅力向上を目的に市内の医療・介護・福祉に係る若手メンバーが、事業所の枠を超えた任意団体を交流会形式で設立した。市としても介護の仕事の素晴らしさを理解してもらうことも含め、この新しい若者の活動を支援していきたい。

要介護認定者数が今後しばらく増え続けると推計されるなか、すでに介護人材が不足している。近い将来、介護難民が大量発生する心配はないか。

育成研修、スキルアップ研修を開催し、やりがいを感じる方を増やして、介護を支える人材確保に努める。

さらには、平成37年前後からは、要介護認定者数の減少が予測される。要介護認定者減少時の、介護施設の事業運営を支える体制づくりについても、次期ハートフルプラン作成において十分な議論を要する必要があると認識している。



ワナで捕獲されたハクビシン

野生鳥獣被害の現状と今後の対策は

昨年製作したカラスの箱わなの扱いはどうなっているか。市街地におけるカラスの糞害がひどく、観光客への影響等、どう捉えているか。

平成29年は、その箱わなを活用してカラスの捕獲をしていく。市街地の糞害対策については、関係部署と協議し対処していく。

野生鳥獣による被害額は。平成25年度1億6千万円、平成26年度1億3千万円、平成27年度は1億1千万円である。

遠野鳥獣被害対策実施隊の充実した組織活動を進める必要があるのでは。

広域での捕獲について仕組みと体制をつくっていく。猟友会は65歳以上が7割となっていることから、広域で有効な対策を講じていく。

朝夕の狩猟時間の延長について県と協議

ジンギスカンの地産地消対策は

遠野の名物はジンギスカンである。地場産であれば、よりPRに繋がるが、どのように考えるか。

市内では羊を飼っていた時期があったが、病気に弱く経営的にも難しい等の理由から普及しなかった。市としては、羊の飼養推進より黒毛和種を重視し振興している。

遊休農地対策としても隣市で飼養されて

遠野物語めぐり号廃止による影響と対策は

利用者の減少と運転手の不足により、遠野物語めぐり号が平成29年の観光シーズンから廃止になる。点在する観光施設への交通の手段が減るが、観光への影響はないか。

仙台など各地で観光PRし誘客に繋げており、めぐり号廃止による大きな影響は考えていない。他の交通手段としてタクシーやレンタサイクルもあるが、市内旅行会社にマイクロバスの運行を協議している。

レンタサイクルの利用促進を図るには、歩道・車道・サイクリ

ングレーンの分離整備が必要ではないか。今後検討していきたい。

めぐり号廃止で観光ポランテアガイドの活躍の場が失われる。代替りの場を増やすことも必要ではないか。

釜石線SL客車の中で観光PRをするなど、新たな活躍の場を増やしていきたい。

風の丘の位置付けには産業振興と観光振興の役割が大きい。交通量の減少を座して待つのではなく呼び込むという意気込みで整備を図る。

一体的に計画されている防災機能施設整備の必要性は。

東日本大震災以降全国的に道の駅が防災施設として注目視されているが、風の丘には防災機能が整備されていないことから一体的に整備する計画である。

3年間の概算事業費は、総額10億7300万円程である。内訳は、駐車場整備に3億6900万円、産業振興拠点施設に1億9000万円、防災館に1億4900万円、施設内リニューアルに2億9400万円、看板等整備に7100万円である。

特定教科集中対策事業について

事業の内容は。数学への対策は、支援員を各中学校に1名ずつ配置する。

英語については、中学校の教師1名を英語力向上アドバイザーとして任命して授業改善に取り組み。また、中学3年生全員を対象に

いよう責任を持つて整備していく。

生徒が各自で目標を持って取り組み、客観的に英語力を判断できる利点がある。「聞く」「話す」「読む」「書く」というバランスのとれた学習ができ、特に「聞く」「読む」とに適した質の良い教材である。英語の学習方を身に付けることを重視したい。



写真の提供：遠野市教育文化振興財団

学習の質を高めて世界に羽ばたく人材を育てたい